【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成18年3月30日(2006.3.30)

【公表番号】特表2005-527791(P2005-527791A)
【公表日】平成17年9月15日(2005.9.15)
【年通号数】公開・登録公報2005-036
【出願番号】特願2003-575023(P2003-575023)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｄ　21/00　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　29/26　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　27/82　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｄ　21/00　Ｋ
Ｇ０１Ｎ　29/26　５０１
Ｇ０１Ｎ　27/82

【手続補正書】
【提出日】平成18年2月10日(2006.2.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
スクレーパ式装置のセンサ支持エレメント（１１）のセグメント（１５）であって、
複数の前記セグメント（１５）から前記センサ支持エレメント（１１）が組み立てられて、筒状包囲面を備える中空体が形成され、
前記スクレーパ式装置が、パイプライン検査のためにパイプライン（１３）を通過可能であり、かつ
前記センサ支持エレメント（１１）が、前記パイプライン検査を行うのに必要なセンサ（２１）を備えたものにおいて、
前記セグメント（１５）が少なくとも２つのランナ対（１６）を有し、各ランナ対が略平行なランナ（１９）から成り、
セグメント（１５）の前記ランナ対（１６）が、前記スクレーパ式装置の移動方向に対して互いに前後に連続配置され、
前記ランナ（１９）が前記スクレーパ式装置の移動方向に配向され、
接続部材によって、連続配置された前記ランナ（１９）が弾性的に互いに接続され、
前記センサ（２１）のためのセンサ支持プレート（２０）が、少なくとも１つのランナ対（１６）のランナ（１９）同士の間に配設されるとともに、このランナ対（１６）のランナ（１９）に接続され、
前記セグメント（１５）が、セグメント（１５）同士を接続する接続装置によって別のセグメント（１５）に接続され、筒状包囲面を備える前記中空体を形成可能に構成されていることを特徴とするセグメント（１５）。
【請求項２】
請求項１に記載のセグメントであって、それぞれが２つの平行なランナ（１９）から成る前記ランナ対（１６）の数が、２～１０対、好ましくは２～４対であるセグメント（１５）。
【請求項３】

請求項１又は２に記載のセグメントであって、接続部材が、セグメント（１５）の連続するランナ（１９）間に、これら連続するランナ（１９）を接続する平行な弾性中間セグメント（１７）として設けられているセグメント（１５）。
【請求項４】
請求項１又は２に記載のセグメントであって、接続部材が、セグメント（１５）の連続するランナ（１９）間に、これら連続するランナ（１９）を接続する２つの分岐又は合流する弾性中間セグメント（１７）として設けられているセグメント（１５）。
【請求項５】
請求項１～４のいずれか一項に記載のセグメントであって、前記スクレーパ式装置の移動方向に向かって前側に、かつ少なくとも１つのランナ対（１６）の間に、このランナ対（１６）のランナ（１９）同士を接続する横フィン（３６，３６ａ，３６ｂ）を有するセグメント（１５）。
【請求項６】
請求項１～５に記載のセグメントであって、１つのランナ対（１６）に取付けられた前記支持プレート（２０）と、前記スクレーパ式装置の移動方向において後続するランナ対（１６）との間に、前記支持プレート（２０）と前記ランナ（１９）とを接続する接続部材（３５）を有するセグメント（１５）。
【請求項７】
請求項１～６に記載のセグメントであって、このセグメントを隣接セグメント（１５）に接続可能にする横フィン部（３６ａ，３６ｂ）が設けられているセグメント（１５）。
【請求項８】
請求項１～７に記載のセグメントであって、前記ランナ（１９）の上側の面に対し端部が面一の金属製耐磨耗シュー（２９）が、このランナに組み込まれているセグメント（１５）。
【請求項９】
スクレーパ式装置のセンサ支持エレメントであって、請求項１～８のいずれか一項に記載のセグメント（１５）を複数組み付けたものから成る筒状中空体として構成されたセンサ支持エレメント（１１）。